



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	特殊講義案：都市と村落Ⅲ
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Description	資料作成年不明（システムの制約のため、発行日には没年を入力した）
Issue Date	1966
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77375
Type	manuscript
File Information	N029_01S36.pdf



Superior Note Book

社会学研究法

東洋大学大学院
修士退学

社会学演習

昭和二十六年



SA
4

TOKYO B.B.B.

これ以前は社会生活の三つの基本的な
枠組であつたところの家族、^{（これは家の）}親戚、^{（これは家の）}及び
（民族）の各々について今言ふでは
どんな事が同じとなつてゐるか、又それ等
の枠組の各々では何となく^{（現象）}が現在
では同じとなつてゐるかについて話した。それは
加藤や^{（その他の社会学者）}研究論文を書く場合の注記
の研究テーマをさかすのに少しは立ち得
たと思ふから左の枠組^{（構）}を解つたので
ある。それから左の枠組についてのは分るた。
けれど、^{（その場合）}左の枠組についての^{（から）}の
理解は既に著書に於いて公にしてゐる。
それから左の枠組はあつた。それは

一、年方々々、各持組内の一般研究で、
 年の格別と持組内の特殊関係（研究に便
 立つ格別を考へる）（一年の格別と持組内
 に行つていふこと）（昨年の格別と持組内
 部と持組内と住居（世帯）との
 比重）の如し、諸節に有るものといふ。端
 茶屋とる、住居との比較の如し、現代部
 内即ち土庫の積累の上で、世帯の格別と持組の現
 在の格別の人間関係の上に、俄かに現るもの
 現在の格別と持組に考慮する、その格別
 の関係を、格別と持組に考慮する、その格別

あゝ、先生の文にはまだ讀んでいない人も
あるが、又、古今東西の多くは正確に私
の所説を説明してない。尤も、^{格がある}
して、人はかたうと。
そんなや、情もあるから、せめて私が直ぐ
教授で、徳民にはよく説明して世の中
にし、先生の著書の整理の爲し、つて、^{私の}
論旨の中核部門を抽出して示すものと
^{と現在の私の考へ方}
果て、それゆゑ、私の^{に於ける主張の}
家程、^{その}
書は、^{その}
都て、^{その}
口民、^{その}
を、^{その}
この一年間にそれを果した。

乙丑田

※私は宗族、村落都市及び口民の
 の四つの基本的枠組について、
 又いふところか、口民社会についての考へ
 方は、私自身未だなところからい
 う、決定的な論述をきつていふことがない
 ので、口民社会なるものを概略的に説明
 する場をもちていふ場合もある。

即ち、四つの基本的枠組について
 私は未だにきつた方針は本大に就いて
 用いられ、また口民社会なるものにも
 宗族、村落、都市に同ず。
 研究の内で、特に口民社会の
 研究に利用され、後、口民社会の概略を
 やり方についてその點をきくのも
 若干いろいろあり、説明した。
 オニ、年図は先におくべし、口民社会の
 の三つの基本的枠組において、日本の
 口民社会の政治の大體、なう、二、三、その
 研究についておぼへるもの、口民
 は口民社会の口民社会、口民社会の
 考へ方の基本について、口民社会の。

余の分類は以下の家庭形式にあ
ける分類、用期性、家の精
神と経済的要素の相
の理解のため。

「おけ」案の主張

一、家族社会の要旨

社会性

一、家族形態の分類、余の三分法、世界的

二、家族の用期性、云々

三、家の経済と家の精神

四、家の自立性

家族性

五、同族に對する余の理解、時と場合

六、最近の動向、いふ所、世多、又現代

私の秘密に在る外人の多さと口説き

地域的集積の意味

各棟の近代的統一が働きして一つの統一

一、その完成の近代的統一を現はして

場合の成長過程の相互の認めあ

この統一の形は民族に異なるものがある

同一地域に多くの異国が

民族の異なる地域を統一する力へ

力、おぼろしく始めるが、その後の

現か支配する、その後の現は力による

支配か、合現による協力があ

村落となり、政治体となる

民族は宗教団体、村落は政治体

第一、村落は宗教的なものあり、その統一の

集團の地域的集積の統一、その自然の

の統一と異なる同操作

(共同操作)は村落は既にその統一

の統一と異なる同操作

二、村落の統一、その統一の統一

統一、その統一の統一

三、村落の統一、その統一の統一

四、村落の統一、その統一の統一

集團分析による村落の統一

統一

余の忠村存正は1940

私の農耕草紙と要諦。

[illegible]

五、生活精選
地、生活地區の概況

理想の時代と現在

$$\begin{array}{r} 12 \\ \text{上} \\ + 19 \\ \hline 31 \\ \text{白} \end{array}$$

重寶を以て見るゝと云ふ事ではなく、其の國の
金部を以て見るゝと云ふ事である。
第一は、この地はと自然に精と精神
との集國、木其土本である。かき田舎だ。
物神、天の下、部、村、等。
有、其の國、同族、と、部、村、等。
（三）は、其の國、同族、と、部、村、等。
に、過、ぎ、ぬ、何、を、精、神、に、見、か、け、は、
中、要、な、もの、

地
区
の
取
扱
い

此地一、二、三

都部

生活地区

十
種
の
筆
画

朝
辭
の
五
石

生活と生業

以上
十月七日

余の

都市の要旨
都市に關する同外

一、都市の機能

都市の交流の結晶としての機能
都市機能と機能
山本より大都市まで

十一月十四日

二、都市の社会構造

世帯と職場

正當人口の正當生活

大都市の異常人口と異常生活

三、都市の生活構造

(一) 空間的秩序

(二) 時間的秩序

都市化調査要項

a. 機関の増加、族別の増加
後進者の社会には比喩の上昇

b. 異質人との社会関係の増加、
通勤通学人への増加

当(移)集落内の機関に可及人員

参集人員(学級及び職場)

c. 合現化の増加

任用貸借より担保、保正

人付、貸借

選考制、不文律より成

文法の採用

任用貸借(月未拂、年拂)より
現金貸借へ正札費より。

四都市化に因り、余の現解

従来の政治学を以ての口実 理解批判

一、口実と実態
一、輪廓と実態

口実と実態

口実と実態の生業活動
口実と実態の生業活動

口実と実態の生業活動
口実と実態の生業活動

征服 暴圧 命令 常規 地位 恩恵 無償 交易 合力 協力 協力

余の口実政治学における口実の主張
一、完結的口実としての口実政治学

二、統治現象の末端より観察
三、行く口実統治現象の現

四、口実政治学
三、口実政治学
二、口実政治学
一、口実政治学

五、行政集団
行政集団の口実政治学の基礎
行政集団の口実政治学の基礎

○ 民生学を基礎諸構

国家

国家は限定された領土がある。領土の中には都市

居住分布

戦場分布

居住と戦場の分布

戦場の機能

交流路線

戦場の集中と交通路線の集中

交通の中
交通の流るゝ内容 (人、心、物)

統治と経済
その他の文化

統治の組織と経済の組織

その他の文化の組織

民生学と生活学

民生学と生活学

○ 民生生活組織

国家の人口法 (人口動態)

生活学における関係組織

生活地区 都市地区 農村地区

農村生活地区 農村生活地区

生活学における関係組織

生活の場と戦場の分布現象と

生活の場と戦場の分布現象と

都市化 都市の戦場と居住

都市化 都市の戦場と居住



口民は、この場から安室を去るも
のは口家の武力で、武力組織としての口家
承継の限界と革命

統治組織の上に於ける集團統治の
權。典據を以て其の地と其の上の法集
團。統治組織が基礎的集團となり其の
上に種々の集團の重積。統治組織を
としその口家。口民は口家の上に
あゝ此の統一。